

琵琶湖博物館で展示中の饗庭野断層

饗庭野断層

10月10日(土)にリニューアルオープンした滋賀県立琵琶湖博物館には「饗庭野断層の剥ぎ取り標本」が展示されています。これは、琵琶湖博物館のリニューアルに伴

せて高島市から琵琶湖博物館へと寄贈したものです。この剥ぎ取り標本は、今津町弘川地区の地表から約4m下の地点で採取されました。当時の耕作土が上下1.3m、水平に2.5mもずれていて断層であることがよく分かります。この断層の規模からは大地震を引き起こしたことがうかがわれ、断層周辺の遺物の出土状況からここ500年の間に活動した(地震を引き起こした)ものと考えられています。

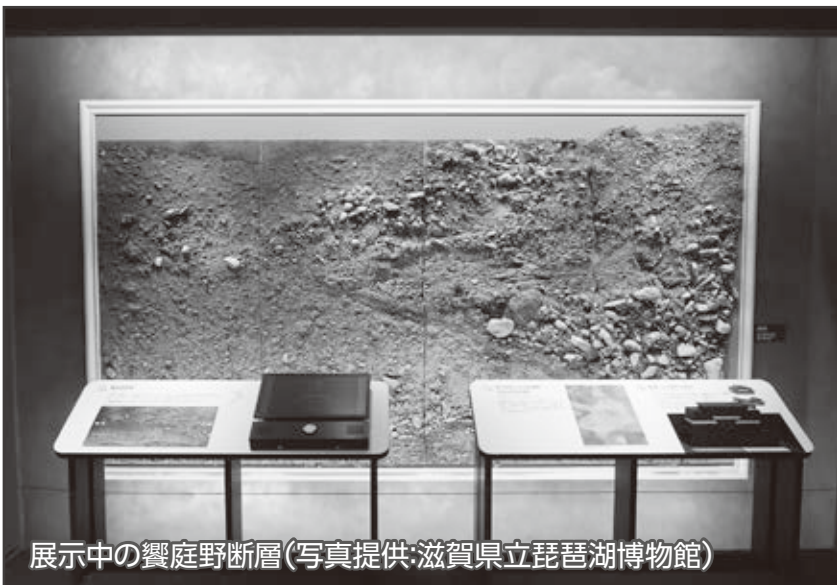
による山地の隆起と盆地の沈降によって現在の位置に移動してきたと考えられています。

昔は現在の琵琶湖の中央部に、山が南北方向に連なっていたと考えられ、断層活動により平地が沈降し山が浸食され、約40万年前におおよそ現在の琵琶湖の形となりました。それら山頂部の名残が沖の白石や竹生島、沖島、多景島として今も残っています。

リニューアルした琵琶湖博物館

草津市の烏丸半島にある琵琶湖博物館では、標本や模型で断層や地層、琵琶湖の生い立ちなどを分かりやすく展示しています。断層はそのまま展示するのではなく、額縁の中に入れ美術品のように展示するなど、さまざまな趣向が凝らされています。他にも琵琶湖の生き物や人々の暮らしなどについて学べる施設となっていますので、リニューアルした琵琶湖博物館を訪れてみてはいかがでしょうか。

※現在、滋賀県立琵琶湖博物館の見



展示中の饗庭野断層(写真提供:滋賀県立琵琶湖博物館)

琵琶湖の形成

琵琶湖の周辺や湖底にはこのような断層が多くあり、これらの活動によって琵琶湖が形成されてきました。琵琶湖の歴史は、約400万年にわたると考えられ、もともと三重県伊賀市付近にあった大山田湖が断層活動

学には事前予約が必要です。詳しくは、琵琶湖博物館のホームページでご確認ください。



沖の白石

文化財課 (25)8559

編集感

ツンとした冷たい空気が「ああ今年も終わりか」と思わせる12月。年末になると流行語大賞や今年の漢字が発表されますが、皆さんにとってどんな1年だったでしょうか。

今年はいつもとは違い家で過ごす時間が多かったからこそ、年末の大掃除を念入りにして、新しい年を明るく迎えられる準備をしようと思います!皆さんも体調にはくれぐれも気を付けて、よいお年をお迎えください(*^^*)(Y.H)



広報たかしま

令和2年

12

月号

No.251

発行▼高島市 編集▼政策部企画広報課
滋賀県高島市新旭町北畑5の5番地

☎0740(25)8000(代)
http://www.city.takashima.lg.jp
t:Info@city.takashima.lg.jp